

実践教育研究発表会 2023

2023. 8. 18～8. 19

大会テーマ 「ものづくり・ひとつづくり・地域への貢献」

2023年度の実践教育研究発表会（宮城大会）が8月18日から19日までの日程で、宮城県栗原市の東北職業能力開発大学校で開催されました。大会は「ものづくり・ひとつづくり・地域への貢献」を大会テーマに掲げ、対面とオンラインとのハイブリッド開催に向けて、大会運営委員会および実行委員会によりいろいろな企画が準備されました。2日間の会期中、1日目140名（内オンライン50名）、2日目80名（内オンライン35名）余りの参加者により発表や討議、情報交換、交流が行われました。

3系共同の企画である特別講演では、「地域エネルギーデータベースを用いるカーボンニュートラル社会の地域デザイン」というテーマで東北大学大学院工学研究科教授の中田俊彦氏の講演が行われました。

講演では、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みをエネルギーデータベースを用いて行う手法（システム）が紹介され、どのよう取り組みを行えば実現できるかを学ぶことができました。



発表会開催校



特別講演の様子



一般講演の様子

各専門部の企画もそれぞれ行われました。機械系では、「安全教育の充実に向けて」というテーマでシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、最初に北条理恵子氏、清水尚憲氏、樋口政純氏、中村瑞穂氏の基調講演があり、その後質疑応答を含めた活発な討論が行われました。

電気・電子・情報系では、「生成系AI (Generative AI) ツール活用に向けて」というテーマでのシンポジウム、また「ものづくりコンペ2023 (SDGsの目標に沿った作品募集)」の結果発表が行われました。

建設系では、第6回建築設計競技会（テーマ「地域に根ざす家」）の受賞者のプレゼンテーションが行われました。

一般講演では機械系27件（内オンライン7件）、電気・電子・情報系18件（内オンライン4件）、建設系12件（内オンライン0件）、能力開発系12件（内オンライン6件）、ポスターセッションは、今回は発表がありませんでした。

企業展示では、全国から21社（22ブース）の出展があり、教育訓練機器や教材、関連製品などの展示が行われました。ブース展示の中にはVRを用いたソフトや新しい機能を持つ3Dプリンター、安価な3Dスキャナーなどの紹介があり、大変参考になりました。

全体交流会は大学校の学生ホールで開かれ（参加者約120名）、各系競技会の表彰式、開催校の川又政征校長などの挨拶、そして正会員と賛助会員、発表会関係者の交流が行われました。



企業展示会場の様子



競技会の表彰式の様子



全体交流会の様子